



放射線相談室だより 71号

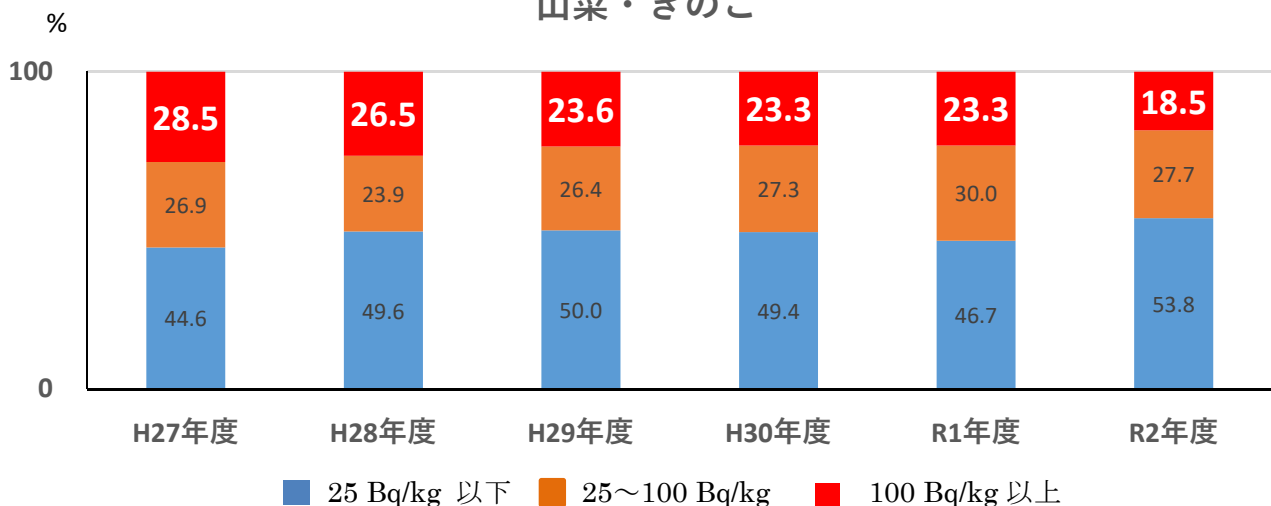
令和2年11月20日

1

広野町の食品モニタリング検査について ～年ごとの変化を見てみましょう～

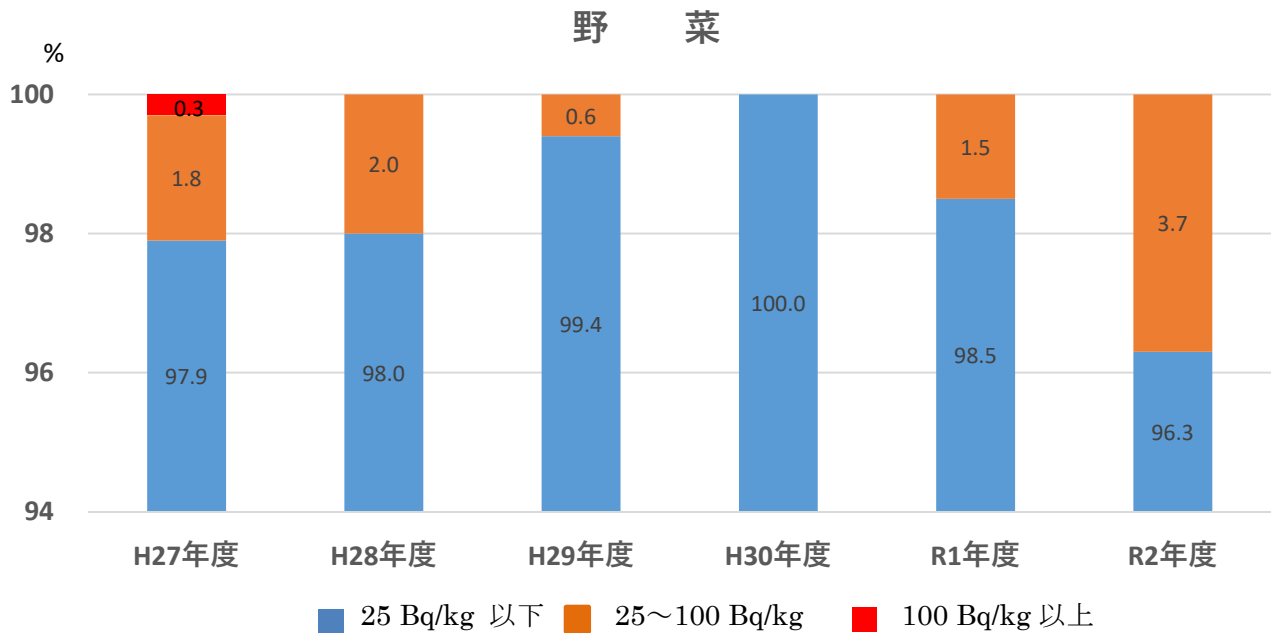
きのこがおいしい季節ですね！広野町では、平成24年4月から放射能簡易分析センターにおいて、一般食品等の検査を行っています。今号では、「山菜・きのこ」、「野菜」の過去のデータ(平成27年度～令和2年10月)をご紹介します。

山菜・きのこ



年度ごとの最大値は、

- ・H27年度 7360.7Bq/kg (ぜんまい)
- ・H28年度 3595.6Bq/kg (こしあぶら)
- ・H29年度 2843.3Bq/kg (しいたけ)
- ・H30年度 2494.4Bq/kg (ししたけ)
- ・R1年度 2446.7Bq/kg (ぜんまい)
- ・R2年度 3081.6Bq/kg (イノハナ)



年度ごとの最大値は、

- | | | |
|--------|------------|---------|
| ・H27年度 | 126.8Bq/kg | (ごぼうの葉) |
| ・H28年度 | 95.3Bq/kg | (みょうが) |
| ・H29年度 | 34.1Bq/kg | (あさつき) |
| ・H30年度 | 24.5Bq/kg | (柿の葉) |
| ・R1年度 | 28.3Bq/kg | (からし葉) |
| ・R2年度 | 56.2Bq/kg | (みつ葉) |

「山菜・きのこ」は放射性物質が検出されやすい代表格ですね。最大値は年々下がってはいますが、基準をこえることも珍しくはありません。

自然の「山菜・きのこ」を食べる前には、検査で安全性の確認をしましょう。

「野菜」に関しては、平成27年度に2件で基準をこえていましたが、以降は検出されていません。

食品のモニタリング結果総括表

(令和2年年10月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	8	8	0	
根菜・芋類	—	—	—	
山菜・きのこ	4	3	1	イノハナ
果物	6	6	0	
穀類	—	—	—	
種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	—	—	—	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	—	—	—	
総検査数	18	17	1	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災復興関連情報 → 放射線量・除染関連 → 放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所 公民館1階 放射能簡易分析センター
 曜 日 月曜日から金曜日(祝日を除く)
 受付時間 午前8時30分～午後4時30分まで

広野町各地区の放射線量

令和2年11月13日13時30分現在(天候:晴)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)	測定箇所	放射線量率($\mu\text{Sv/h}$)
広野小学校	0.08	広野町役場	0.09
広野中学校	0.08	高速バス利用者駐車場	0.16
広洋台地区集会所	0.09	上田郷橋付近 ^{注1}	0.11
二ツ沼公園 ^{注2}	0.08	北沢複合交差点	0.12
長畑地区集会所	0.12	県道広野～小高線沿	0.15
小滝平浄水場 ^{注2}	0.08	仮置場	0.08

注1 平成29年3月設置

注2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではnGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

畑作物や山菜・きのこの放射性セシウムについて

千葉大学大学院園芸学研究科教授 小林達明

昨年度の食品モニタリング試料 273 点のうち、野菜類と根菜・芋類は全て広野町独自基準 50 ベクレル以下でしたが、果物では柿一点が食品基準 100 ベクレルを超えていました。ここ数年のデータを見ても、畑でとれる野菜類・根菜類では、1 点も 50 ベクレル以上のサンプルは出ていません。果物では、柿がまれに 50 ベクレルを超えることがあります。畑でとれる作物は概ね大丈夫と言ってよいでしょう。

山菜・きのこ類では、100 ベクレル以上のサンプルが結構あります。昨年度最も放射能が高かったのは、ゼンマイで 2400 ベクレルありました。その他 1000 ベクレルを超えていたのは、コウタケ（＝イノハナ）とコシアブラでした。これらは高放射能の常連です。

タケノコは、検出不能なほど放射能が低いサンプルも複数ありますが、最も高いものは 390 ベクレルありました。平成 24 年度から 8 年間の放射能の変化をグラフにしたところ、平成 24 年度は試料の 80% が 100 ベクレル以上でしたが、平成 28 年度には 20% まで低下しました。しかし、その後は全体的に足踏みしながら徐々に低下する状態のようです。セシウムには 2 種類あり、放射能半減期が 2 年のセシウム 134 は当初の 5% 以下まで低下しています。しかし、セシウム 137 の半減期は 30 年で、現在でも当初の 80% 程度に維持されています。このセシウム 137 の影響で、山菜・きのこの放射能は停滞しています。

除染が行われた林地の山菜・きのこの放射能は低下していると思われませんが、除染されていない林地も多く、そこでとれる山菜・きのこの放射能は、今後も高い状態が引き続くと思われます。山菜の食品モニタリングは、これからも継続する必要があります。

タケノコ試料の放射能頻度割合の変遷

